

「豊岡市・地方都市の暮らしハッカソン」の実施結果

～地域課題を解決するためチームに分かれアプリ試作～

豊岡スマートコミュニティ推進機構(※1)が、地域課題の解決に向けた取組みとして、市民・行政・企業がアイデアを出し合い、デジタルを活用した新たなサービスを開発する「豊岡市・地方都市の暮らしハッカソン(※2)」を実施した。その結果をお知らせする。

※1 豊岡スマートコミュニティ推進機構

豊岡市と一般財団法人トヨタ・モビリティ基金が共同で設立した団体

※2 ハッカソン

ハック(コンピューターのプログラムを書く)とマラソンを掛け合わせた造語。プログラマーや設計者などがソフトウェア開発を短期間で行うイベント

1 開催概要

(1) 開催日 2023年3月3日(金)～5日(日)

(2) 会場 豊岡稽古堂3階(豊岡市中央町2-4)

(3) 参加者 エンジニア、デザイナーテーマ発案者(市内の高校生など) 27人

2 実施結果

(1) 実施概要と審査結果

参加者が6チームに分かれ、地域課題を解決するためのアプリの試作を行った。

審査の結果、人々の居場所とコミュニティをつなぐ「社会的処方(※3)」に着目したチームが最優秀賞を受賞した。

※3 社会的処方

薬の処方など医師の医学的処方に加えて、患者等の健康や幸福の向上などを目的に、地域の活動やサービス等につなげること。



チームでアプリの試作を行う参加者



最優秀賞に選ばれた「居場所づくり」チーム

(2) 各チームの取組み結果

チーム名	取組み内容
移 動	移住や観光客など土地勘のない人たちに対して気象状況や交通規制、渋滞情報を反映させた目的地までのルート提案と、移動に関するローカルな情報を投稿するアプリの試作を行った。
居場所づくり 【最優秀賞】	「社会的処方」の考え方を軸に、社会的に孤立している人たちに社会的に繋がれるコミュニティを紹介する仕組みを地元の医師や保健師が参加し試作した。地域のサークル活動でチャットの利用を促し、その内容を ChatGPT (※4) (AI) が要約・分析しリンクワーカーへ繋ぐなど、最新の AI 技術の活用が評価された。
読書と自然	自然の中での読書を推進し、野外で本を読むのに適した場所や、気象情報、経路、本の感想等を共有するアプリの試作を行った。市内の高校生がテーマの発案を行った。
里山活用	担い手が不足し、農業用水や有害鳥獣の問題に繋がる里山管理のためのシミュレーションゲームの試作を行った。市内の高校生がテーマの発案を行った。
地 蔵	豊岡の地蔵文化に着目し、市内に点在するお地蔵さんについて由来など関連情報を地図にマッピングし、アプリ上で検索したり、スマホから各地蔵に割り振られた電話番号に電話を掛けて各お地蔵さんの説法を自動音声で聞いたりすることができるアプリの試作を行った。
スナック	街の賑わいを取り戻すためのコンテンツとして、市街地に集積している豊岡のスナックに着目し、NFT (※5) を活用した会員証発行など若者がローカルな飲食店を訪れ、街の人々と結びつくためのアプリを試作した。

※4 ChatGPT

Open AI 社が開発したインターネットの対話サービスのこと。人工知能 (AI) と人間のような自然な会話ができる。

※5 NFT

コンピューター上で作成されたアートや音楽など、デジタル作品の所有者や取引履歴を記録できる仕組み。

3 今後の動き

「移動」や「居場所づくり」などのチームは、ハッカソンの終了後もアプリケーション開発や定期的な打合せなど、サービス実現に向けた活動を継続している。

豊岡スマートコミュニティ推進機構は、専門家のアドバイスを受ける機会やデータの提供などの支援をしており、今回のハッカソンで試作されたサービスの社会実装を目指していく。

[問合せ] DX 推進部 DX・行財政改革推進課 TEL0796-21-9146 (直通)